

2026 年2月26日

各 位

会 社 名 株式会社レクメド

代表者名 代表取締役社長 松本 正

(コード番号：529A 東証グロース市場)

問合せ先 取締役 管理部長 齊藤 涼子

(TEL. 042-732-2207)

### 2026年3月期の業績予想について

2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）における当社の業績予想は、以下のとおりであります。

【個 別】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2026年3月期 (予想)		2026年3月期 第3四半期累計 期間(実績)		2025年3月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上高 比率	対売上高 比率			
売 上 高		458	100.0	△4.4	321	100.0	479	100.0
営業損失(△)		△869	—	—	△496	—	△112	—
経常損失(△)		△1,098	—	—	△714	—	△115	—
当期(四半期) 純損失(△)		△1,099	—	—	△714	—	△120	—
1株当たり当期 (四半期)純損失 (△)		△168円36銭		△111円10銭		△22円54銭		
1株当たり配当金		0円00銭		0円00銭		0円00銭		

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりません。

2. 2025年4月1日付で普通株式1株につき普通株式500株の割合で株式分割を行っております。2025年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純損失を算出しております。

3. 2025年3月期(実績)及び2026年3月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純損失は期中平均発行済株式数により算出しております。また、2026年3月期(予想)の1株当たり当期純損失は予定期中平均発行済株式数により算出しております。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2026年2月26日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

## 1. 全体の見通し

当社は設立以来、「Required Medicine for all who request it」（人々に求められる医薬品）の開発に取り組んでおります。

具体的には、患者に寄り添い現場のニーズを汲み取りながら、国内外のベンチャー企業やアカデミアとの強力な研究ネットワークを生かし、患者が必要としているアンメット・メディカル・ニーズ(※1)の薬剤シーズを見つけ出します。そして、開発のステージアップの途中で他の製薬企業にライセンスアウトせず、薬剤シーズ保有先とリスク・リターンを共有しながら自社で開発を推進し、日本における製造販売承認を取得します。開発から承認申請までの全ステージを自社で一貫して手掛けることにより、臨床開発デザインのノウハウや新薬申請経験を蓄積することが可能となります。

このビジネスモデルの特色を活かして2014年には当社最初の医療用医薬品である「サイスタダン原末」の上市に成功しました。また、2023年6月には、当社2品目となる「オファコルカプセル50mg」の上市にも成功しました。

(※1) アンメット・メディカル・ニーズ：未だ満たされていない医療ニーズ、未だ有効な治療方法がない医療ニーズのこと。

現在の当社の研究開発パイプラインとその進捗状況は以下のとおりです。

開発コード (物質名称)	適応症	開発ステージ						
		探索	前臨床	PI	PII a	PII b	PIII	申請
NaPPS (ポリ硫酸ペントサンナトリウム)	変形性膝関節症		▶	▶▶	▶▶▶	▶▶▶▶	▶▶▶▶▶	
	(適応拡大) 変形性手関節症	変形性膝関節症での臨床試験データを利用し、適応拡大用の申請用臨床試験は第III相試験を中心に考えています						
	(適応拡大) 変形性股関節症							
	ムコ多糖症及びムコリピドーシス* (骨・軟骨症状改善)				▶▶	▶▶▶		
	HTLV-1関連脊髄症*				▶▶▶			
開発コード:未定 (エルトプラジン)	進行期パーキンソン患者のレボドパ誘発ジスキネジア*	開発パートナー <sup>注1</sup> が米国在住日本人の薬物動態試験、欧州で前期第II相実施						

注1: PsychoGenics Inc. (現: FGI Drug Discovery LLC)

\* 希少疾病用医薬品の指定基準 (患者数5万人以下) を満たしている

▶ : 実施済試験

▶▶ : 実施中試験

### ご注意:

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2026年2月26日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

## (1) 医薬品開発事業

### ① ポリ硫酸ペントサンナトリウム

ポリ硫酸ペントサンナトリウムはブナから抽出された植物由来の半合成物質で、欧州で1949年に抗血栓症治療薬として開発されるなど古くから知られており、1996年には米国で間質性膀胱炎治療薬として、2017年には欧州で膀胱痛症候群の治療薬として承認・販売されています。また、動物用医薬品としては犬の骨関節炎治療薬として日本で販売されており、オーストラリアでは犬と馬の関節炎治療薬として販売されています。

韓国では間質性膀胱炎治療薬として販売されており、当社はライセンス契約に基づき原薬売上にかかる収益の一部を原薬輸入元から受領しております。

#### ・変形性膝関節症

国内の疫学調査において国内全体では未治療を含め約3,000万人もの潜在患者数が存在すると推定される（出典：介護予防の推進に向けた運動器疾患対策に関する検討会（厚生労働省）「介護予防の推進に向けた運動器疾患対策について」）など、超高齢化社会の日本においては薬剤の必要度が高まっています。

ポリ硫酸ペントサンナトリウムは既存の薬剤とは異なり、皮下注射にて薬剤が全身に届く新しい変形性膝関節症治療薬を目指しております。第Ⅲ相試験を2024年12月に開始し、2025年7月24日に最初の被験者への治験薬投与を開始しました。2026年2月12日時点の本登録治験者数は53名です。

当社は、帝國製薬株式会社との間で、上市後当社が販売・プロモーションを担う販売基本契約を締結しており、変形性膝関節症を適応症とした開発段階に応じて、同社よりマイルストーン収入を得てきました。

#### ・変形性手関節症

変形性手関節症は、（特に人差し指と中指）の指先と真ん中の関節や親指の根元の関節に変形性関節症が起きる疾患で、手の痛みだけでなく、手の機能低下や巧緻な運動が障害されて日常運動や生活の質の低下を引き起こします。2022年に発表された「科学研究費助成事業の研究成果報告書（課題番号：18K17374）」において、国内で初めての疫学研究がなされ、重度の変形性手関節症の発生率は7.5/1000人・年、増悪率が8.6/1000人とされています。国内人口を約1億2000万人とすると、年間約70万人の新規患者が発生し、年間約100万人の患者さんの症状が悪化していると推定しております。しかしながら、膝関節と違い手関節は関節が小さく、局所投与の薬剤は使いにくく、変形性膝関節症の治療で多用されているヒアルロン酸は変形性手関節症に対して適応症を持っていないのが現状です。これに対し、ポリ硫酸ペントサンナトリウムは、皮下投与で全身に薬剤の効果が期待できるので、変形性手関節症に対して新しい治療選択肢をもたらすことが期待できると考えております。

#### ・変形性股関節症

変形性股関節症は、足の付け根にある“股関節”の軟骨が徐々にすり減り、歩行などの動作時に痛みを引き起こす病気で、症状の進行に伴い日常生活に影響を及ぼし、生活の質の低下を引き起こします。変形性股関節症の有病率1%（出典：日本整形外科学会診療ガイドライン委員会、変形性股関節症診療ガイドライン策定委員会「変形性股関節症診療ガイドライン」）を日本の人口に換算して120万人の潜在患者数が存在すると推定されます。現在、ヒアルロン酸に抗炎症剤ジクロフェナクを化学結合したジクロフェナクエタルヒアルロン酸ナトリウムが変形性股関節症に対して適応症を取得していますが、同剤投与により重篤なショック、アナフィラキシーが発現する恐れもあり、変形性股関節症は当社が目指すアンメットな疾患の一つと考えられます。

#### ・ムコ多糖症(※2)及びムコリピドーシス(※3)

当社はポリ硫酸ペントサンナトリウムのムコ多糖症及びムコリピドーシスを対象とした開発を進めております。本疾患群は、出生時から体中でムコ多糖を分解する酵素の働きが弱い、あるいは酵素がないために、ムコ多糖が体に蓄積することで発症します。本疾患では、乳児のときから繰り返す中耳炎や難聴、広範囲の蒙古斑、騒音呼吸、肝脾腫（お腹の腫れ）、臍ヘルニア、鼠径ヘルニアなどの症状が見られ、成長するにつれて角膜混濁、低身長、骨の変形、顔立ちの変化、関節可動域の制限など、さまざまな症状が現れます。ポリ硫酸ペントサンナトリ

#### ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2026年2月26日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

ウムはこれらの症状のスタートとされるムコ多糖の炎症惹起を抑える効果が報告されています。現在、酵素補充療法が標準治療となっていますが、骨・関節領域には効果がなく、変形性関節症で効果が認められつつあるポリ硫酸ペントサンナトリウムが注目され、ムコ多糖症動物モデルで関節や軟骨に有効性が確認されました。

当社では4名のムコ多糖症患者と2名のムコリピドーシス患者の計6名の被験者による後期第Ⅱ相試験を実施し、ムコ多糖症患者の関節可動域が拡大していることを確認しました。

(※2) ムコ多糖症：細胞内でのムコ多糖及び糖脂質の分解に必要な酵素が生まれつき足りないために、全身の細胞に糖蛋白質・糖脂質が蓄積し骨の変形や神経症状が生じる先天代謝異常疾患

(※3) ムコリピドーシス：細胞内でのムコ多糖及び糖脂質の分解に必要な酵素をライソゾーム（細胞内の不要物を分解する機能を持つ細胞小器官の一つ）に運ぶ機能が働かず、ムコ多糖症と似たような症状を起こす先天性代謝異常疾患

#### ・HTLV-1関連脊髄症(HAM) (※4)

HAMは、成人T細胞白血病・リンパ腫の原因ウイルスであるHTLV-1感染によって惹き起される進行性の脊髄炎であり、歩行障害、排尿障害等を伴います。HAMの推定有病率は人口10万人中3人、患者数は3,600人弱と推定されています（出典：厚生労働科学研究費補助金（新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業）「本邦におけるHTLV-1感染及び関連疾患の実態調査と総合対策」平成21年度総括研究報告書）。

当社では国立大学法人長崎大学と共同でポリ硫酸ペントサンナトリウムの新規HAM治療薬開発に向けた検証的臨床研究を実施しました。その結果、ポリ硫酸ペントサンナトリウムはHTLV-1感染T細胞の脊髄内浸潤を抑制し、脊髄内の慢性炎症を抑え、下肢機能障害の改善を示すことを確認できました。これらの結果を元に、薬剤の承認に向けた臨床試験を計画しております。

(※4) HTLV-1関連脊髄症(HAM)：血液中の白血球の一つであるリンパ球のうちのT細胞に感染する成人T細胞白血病ウイルス(HTLV-1)に感染したリンパ球が脊髄で炎症を引き起こすことによる運動障害、排尿排便障害等の疾患。

## ② エルトブラジン

エルトブラジンはセロトニン5HT1A/1B (※5) のパーシャルアゴニスト(※6)で、中枢性疾患の動物モデルで注意欠陥・多動性障害の他、パーキンソン病におけるレボドパ (※7) 誘発性ジスキネジア(LID)での有効性が確認されております。

パーキンソン病の治療では、脳内で不足しているドーパミンを補給するためにその前駆体 (※8) であるレボドパを服用します。後期のパーキンソン患者では、セロトニン作動性神経細胞がレボドパを取り込んでドーパミンに変換して脳内でドーパミンを放出します。しかし、セロトニン作動性神経細胞はドーパミンの脳内濃度を調整する機能がなく、脳内でドーパミンの濃度が一気に上昇してしまい、患者が自分で運動をコントロールできなくなります。エルトブラジンは、このセロトニン作動性神経細胞に働きかけ、ドーパミンの急激な放出を抑えることで、ジスキネジアの発生を抑えることを可能にする薬剤です。

当社は、2003年にPsychoGenics Inc. (現：PGI Drug Discovery LLC)との間で本剤の共同開発を開始し、米国在住の日本人と欧米人との間で薬物動態に相違がみられないことを示した試験（国内の第Ⅰ相試験に相当）や、欧州でパーキンソン患者を対象とした第Ⅱ相試験を実施しました。国内の開発においてはこれらの結果を活用することで初期臨床試験をスキップして開発を進められるメリットがあると考えています。

(※5) 5HT1A/1B：セロトニン（神経伝達物質）が結合する受容体のサブタイプ。

(※6) パーシャルアゴニスト：受容体を完全に遮断するのではなく、生体反応を少しだけ残すように作用する拮抗作用を有する物質。

(※7) レボドパ：パーキンソン病で不足しているドーパミン(中枢神経系に存在する神経伝達物質)の補充剤。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2026年2月26日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

(※8) 前駆体：ある物質が生成される前の段階にある物質。

## (2) 医薬品販売事業

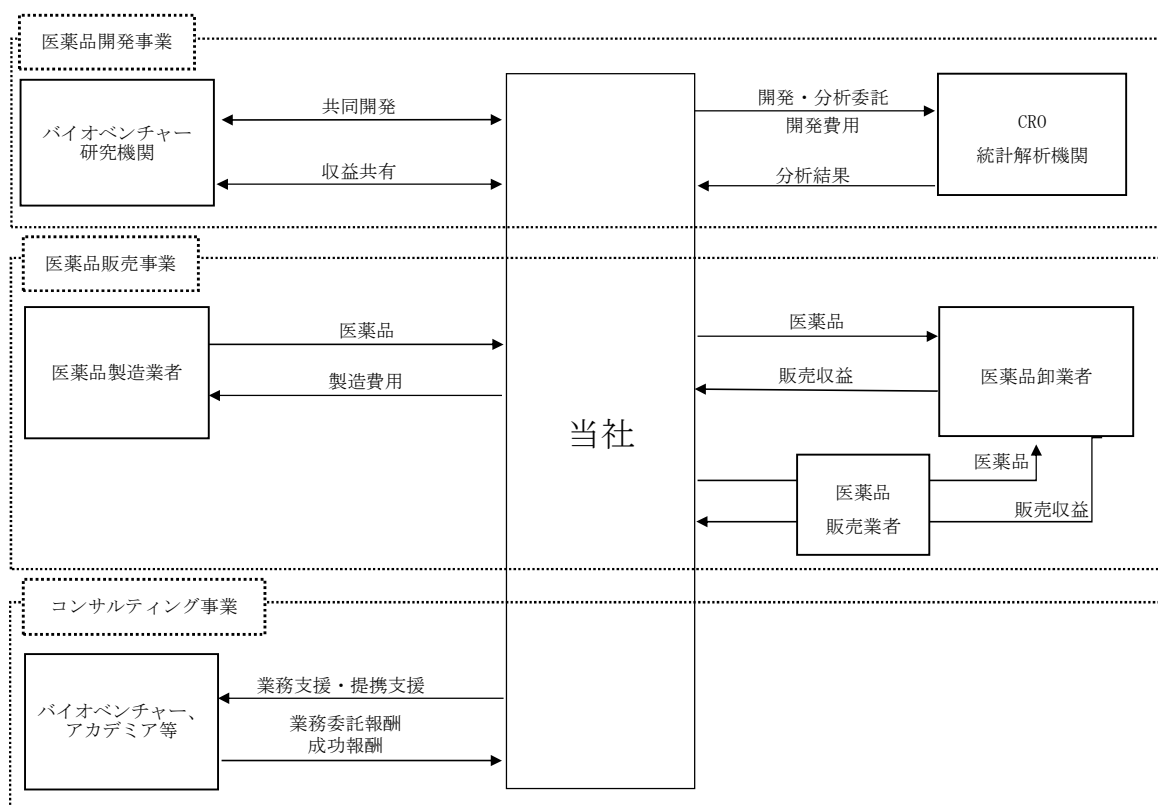
医療用医薬品は医薬品卸売業許可を得た卸売業者経由で病院や薬局に流通します。当社は開発して製造・販売承認を得た製品の市場サイズに合わせて①自社から直接卸売業者へ販売するか、②他の医薬品販売業者へ委託して卸売業者へ販売する体制をとります。

現在はオファコルカプセル50mgを自社から直接卸売業者へ販売しております。医療機関に対しては当社（もしくは当社の委託業者）がコンタクトして、医療情報の提供やオファコルカプセル50mgの服用時の情報収集を行っております。

## (3) コンサルティング事業

長年の国内外のバイオベンチャーとの共同開発や医薬品開発のノウハウが社内に蓄積しており、それらを活用したい国内外のバイオベンチャーやアカデミアからの依頼により、業務提携サポートや創薬戦略立案の支援等を行っております。

事業系統図は以下のとおりであります。



### ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2026年2月26日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

## 2. 業績予想の前提条件

当社の行う事業は、医薬品事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

1月までは実績値、2月以降はそれまでの実績を勘案して見通しを立て直した結果、2026年3月期の業績は、売上高458百万円（前期比4.4%減）、営業損失869百万円（前期は112百万円の営業損失）、経常損失1,098百万円（前期は115百万円の経常損失）、当期純損失1,099百万円（前期は120百万円の当期純損失）を見込んでおります。

### （売上高）

売上高は「オファコルカプセル50mg」を柱として、韓国におけるポリ硫酸ペントサンナトリウム原薬の販売に伴う収益分配、コンサルティング収入に関して売上高を見込んでおります。

「オファコルカプセル50mg」は欠品が生じると患者の命に関わる可能性がある為、月々の出荷量を精査した上で個別に月ごとの購入数量を予測して積み上げ、欠品を起こさず供給できる量をもって売上高を見込んでおります。

韓国におけるポリ硫酸ペントサンナトリウム原薬の販売は、前年度実績を元に売上高を算定しております。

コンサルティングにかかる収入は契約に基づき見込まれる売上高を算定しております。

これらの結果、売上高は前期比4.4%減の458百万円を計画しております。

### （売上原価、売上総利益）

売上原価は、「オファコルカプセル50mg」の仕入代金、通関費用等により構成されています。

「オファコルカプセル50mg」売上高の変動に伴い仕入原価が変動することから、売上原価は前期比83.1%増の201百万円を見込んでおります。今年度は前年度に発生したマイルストーン収入が発生しない見込みで、売上原価のある「オファコルカプセル50mg」の売上高に占める割合が高くなった結果、売上総利益は前期比30.5%減の256百万円を計画しております。

### （販売費及び一般管理費、営業損失）

販売費及び一般管理費は、主に、研究開発費、人件費、その他の販売費及び一般管理費で構成されています。

研究開発費は、研究開発に係る業務委託費、人件費、地代家賃等から構成されています。研究パイプライン毎に研究開発計画を策定しており、委託業務や申請時の支払手数料等を積み上げて策定しております。また、当該計画を推進するために必要な人件費は、前年度の平均額を元に採用計画に基づく人数を掛けて策定しております。2026年3月期はポリ硫酸ペントサンナトリウムの第Ⅲ相試験が本格的に開始した年度であり、第Ⅲ相試験に係る費用が増加するため、前期比197.3%増の849百万円を計画しております。

人件費は、役員、医薬品販売、管理部等の人件費で構成されています（研究開発に係る人件費は研究開発費に含めております）。2025年3月期の平均額を元に採用計画に基づく人数を掛けて策定しております。その結果、人件費は、管理部における従業員の採用等により、前期末18名から今期末25名へと前期比21.5%増の144百万円を計画しております。

その他の販売費及び一般管理費は、監査法人や法律事務所等の外部専門家に係る支払報酬や「オファコルカプセル50mg」の保管にかかる業務委託費等で構成されており、外部専門家との契約に基づく報酬や前年度実績

#### ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2026年2月26日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

額等を積み上げて策定しております。その他、株式上場へ向けて体制を整える中で外部専門家に支払う報酬が増加したこと等により、その他の販売費及び一般管理費は、前期比71.7%増の133百万円を計画しております。

これらの結果、販売費及び一般管理費は前期比133.8%増の1,126百万円、営業損失は869百万円(前期は112百万円の営業損失)を計画しております。

(営業外損益、経常損失)

営業外収益は、預金に係る受取利息1百万円並びに為替差益8百万円を見込んでおります。

営業外費用は、2025年6月に実施した第三者割当増資の私募委託手数料、上場関連費用及び株式交付費等であり、238百万円を見込んでおります。その結果、経常損失は1,098百万円(前期は115百万円の経常損失)を計画しております。

(特別損益、法人税等、当期純損失)

特別利益及び特別損失の計上を見込んでおりません。

法人税等は、0百万円の計上を見込んでおり、この結果、当期純損失は1,099百万円(前期は120百万円の当期純損失)を計画しております。

**【業績予想に関するご留意事項】**

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。また、創薬系バイオベンチャー企業の一般的なリスクは、以下のサイトをご参照ください。

「<https://www.jpx.co.jp/listing/others/risk-info/>」

なお、当社は医薬品の研究開発を行っており、当社固有のリスクを踏まえた投資判断が必要となりますが、当社固有のリスク情報等については、「新規上場申請のための有価証券報告書」(Iの部)の「事業の内容」、「経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」、「事業等のリスク」、「重要な契約等」などの記載事項をご確認ください。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2026年2月26日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なる場合があります。